

初台リハビリテーション病院

「第29回本町まつり」に参加しました!

3月8日、渋谷区本町地域の恒例行事「本町まつり」に今年も参加いたしました。会場は、2025年にオープンした地域の新拠点「本町CC」です。当院のブースでは、リハビリ道具を使ったゲームや電動車いすの試乗体験、体力測定を実施しました。体力測定では、子どもたちが「もう一回!」「勝った!」と夢中で挑戦する姿が印象的でした。世代を超えた多くの地域住民の方々と交流ができ、スタッフ一同とても楽しい時間を過ごさせていただきました。



船橋市立リハビリテーション病院

船橋市の「足腰の衰え事業」実施しています!

船橋市では、運動機能低下の早期発見や介護予防を目的として、65歳以上で市から利用券が郵送された方を対象に、立ち上がりテスト、2ステップテスト、ロコモ25を実施しロコモ度を判定し、リハビリ専門職から指導を受けられる事業があります。当院も指定機関として参加しており、結果に合わせて運動や生活習慣の見直しなどアドバイスをしています。ご自身の足腰の状態を知る良い機会となりますので、ぜひお気軽にお申込みください!



船橋市リハビリセンター

PPE (個人防護具) 着脱研修

船橋市リハビリセンターでは、感染対策委員会主催で全スタッフに向けてPPE (個人防護具) 着脱研修を実施しました。正しい着用手順と安全な脱衣方法を実践形式で確認し、スタッフ一人ひとりの感染対策意識と対応力の向上を図りました。日常業務における感染リスクの低減と、利用者さま・スタッフ双方の安全確保につながる取り組みとして、今後も継続的な教育と訓練を行ってまいります。



在宅総合ケアセンター元浅草

3月24日 たいとう診療所無料相談会 (佐竹商店街) の開催

地域住民の方がご自身の健康・栄養・体力のこと、また福祉用具の使用法など、直接専門職に相談できる場として『無料健康相談会』を開催し、25名の方が参加されました。今回は『身体に負担のない歩き方を知りたい』『正しい歩行杖の使い方がわからない』といった相談や、食品業者の方からは試食品紹介があるなど、幅広い内容となりました。



在宅総合ケアセンター成城

祖師谷さくら草コーラスさんによる歌声を披露

祖師谷さくら草コーラスの皆さまをお迎えし心温まる歌声を披露して頂きました。自然と笑顔が広がり、利用者さまも口ずさんだり、リズムをとったりと心が動くひとときとなりました。会場には和やかな空気が流れ、普段よりも会話が弾み、活発に交流される姿を見て音楽の力を改めて実感しました。これからも日常に彩りを添え、心を豊かにする活動を大切にしながら利用者の皆さまが笑顔で過ごせる場を作っていきたいと思っております。



kisei-kai
情報誌



新入職員の皆さまへ 理事長挨拶



水間理事長

新入職員の皆さま、医療法人社団輝生会への入社まことにおめでとうございます。

今年度は118名の新入職員の皆さまをお迎えすることができました。皆さまのご入職を心から歓迎いたします。

私たちの法人は、1998年にリハビリテーション資源の乏しかった都市における在宅でのリハビリテーション医療を実践する場として、石川誠が「たいとう診療所」を開設した事に始まります。2002年初台リハビリテーション病院開設に伴い医療法人社団輝生会となり、5カ所でのリハビリテーション医療サービスの拠点を整備し今日に至っております。

当初から「人間の尊厳の保持」「自己決定権の尊重」「情報の開示」のSpiritのもと「地域リハビリテーションの推進」というMissionを遂行しつつ、大きな目標である「ノーマライゼーションの実現」というVisionに向けての歩みを進めてまいりました。そして、「One for all, All for oneの精神」でチームアプローチを推進し、「障がい者とともに歩む精神」をもって質の高いサービスの提供を実践しています。また、回復期や生活期でのリハビリテーション医療だけではなく、各拠点の地域で行っている地域リハビリテーション活動を通じて将来 Visionにつながる様々な取り組みを行っております。皆さまには「ノーマライゼーションの実現」

という法人の大きな目標を理解・共感して頂きながら日々の業務に取り組んでいただきたいと思います。そのためには、地域リハビリテーション活動にも積極的に関わっていただき視野を広げていただきたいと思います。

現在、法人では一人ひとりが夢や目標を持ち、満足感をもって働くことができる組織、人と人とのつながりを大切にする組織、自律して働くことができる組織を目指して様々な改革を推進しております。また、10年20年先を見据えた新たな事業に着手したところでもあります。皆さまには、輝生会の将来を担うチームの一員として、大きな目標に向かって歩いて行く力となっていただけることを期待しております。



2026年4月1日、新たな門出を祝福するような春の小雨が舞う中、118名の新入職員を迎え、入社式を執り行いました。水間正澄理事長の講演では、輝生会の理念や事業の三本柱が説明され、「正しさの追求」や「チャレンジすること」など輝生会マインドの重要性が語られました。

またセコム株式会社専務取締役・セコム医療システム株式会社取締役会長の布施達朗様による特別講演では「困難な状況にも逃げずに立ち向かえば皆さんは成長する」との温かいエールが贈られました。新たな仲間とともに、日本のリハビリテーション医療の成長へと繋がるよう、全力で努めてまいります。

輝生会の基本理念と方針	<ul style="list-style-type: none"> ■ 「人間の尊厳」の保持 ■ 「主体性・自己決定権」の尊重 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 「地域リハビリテーション」の推進 ■ 「ノーマライゼーション」の実現 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 「情報」の開示
輝生会における患者さまの権利	<ul style="list-style-type: none"> ■ 人権を尊重される権利 ■ 自分の診療の情報や記録を知り、求める権利 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 最善の医療を受ける権利 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 自らの意思で選択・決定する権利 ■ プライバシーの保護を求める権利

輝生会きらっとスタッフ(障がい者スタッフ)の活躍について

障害のあるなしに関わらず、誰もがその能力と適性に応じた仕事に就き、地域で自立した生活を送れる社会には希望があります。そのため企業側には法定雇用率に基づいて、障害のある方を一定数採用する義務がありますが、故石川会長、水間理事長は、輝生会が障害のある人々の就労について積極的に支援することは「義務」ではなく「当たり前」のことであることを強調してきました。そこで輝生会がどのような取組みを推進しているのかご紹介したいと思います。



職場見学会の様子



環境整備(病院内のお花に水やり)

1. 輝生会の理念と共生社会の実現

「共生社会」は障害の有無、年齢、性別、人種、国籍などの違いを認めあい、誰もが互いに支えあって暮らしていくことを目指します。輝生会は怪我や病気で障害が残った方であっても、自らの能力を最大限に発揮し自己実現ができるようにリハビリテーション医療を提供しています。さらに地域社会に対しては、活動を制限している環境が改善されるように働きかけています。

つまり、このことは共生社会に寄与することです。『障がい者雇用の推進は、「人間の尊厳」の保持、「ノーマライゼーション」の実現、「主体性・自己決定権」の尊重、を掲げる法人理念とも合致する』と述べる故石川会長、水間理事長の思いもここにありまます。

2. 「きらっとスタッフ」とともに働く

輝生会では障がい者雇用枠で入职した方を「きらっとスタッフ」として各職場内で、仲間として一緒に働きます。

いわゆるインクルーシブ方式で障害の有無を問わず、すべての人を受け入れて排除しない働き方が輝生会スタイルです。このため入职時にはご本人に了解を得られる範囲で、職場の仲間にも障害特性を伝え配慮事項を共有します。また、職場内で検討し、切り出した業務を担当してもらうことで「きらっとスタッフがいてくれて助かった」という職場風土づくりを目指しています。

3. 「きらっと会議」が支える

輝生会では雇用推進や定着支援を「職員支援室」とともに、定例開催される「きらっと会議」が支えています。

きらっと会議のメンバーは部長・部長補佐クラスです。施策に実効性を発揮できます。障がい者雇用や就労定着のためには受け入れる職場側の理解や協力は欠かせません。輝生会らしく「きらっとスタッフ」を支えるためのリーダー役を部長・部長補佐たちが担っているのです。

4. 支援機関と連携しながら社会的使命を果たす

2025年度に新たに、初台リハビリテーション病院へ3名、船橋市立リハビリテーション病院へ1名の方が入职しました。採用までの過程においては就労・生活支援センター、就労支援機関、ハローワークなどとも連携しながら、職場見学会や職場実習の機会を設け、応募する方たちが、事前に仕事や職場環境を知り就労先として具体的に検討できるように配慮をしました。

5. 「きらっとスタッフ」の活躍

輝生会ではさまざまな部署に配属される「きらっとスタッフ」ですが、特に病棟アテンダント業務は、船橋市立リハビリテーション病院で先行導入し、新入职者含めて4名の「きらっとスタッフ」が活躍しています。この取組みは好事例として「医療機関の障害者雇用ネットワーク」(代表依田晶男氏)でも紹介されました。病棟アテンダントは病棟内で主に介護福祉士をサポートしつつ、入院患者さまのおむつや消耗品の補充などの業務を担当します。

一口におむつ補充といっても、さまざまな種類のおむつを患者さま毎に正確に、そして決められた時間内で補充する業務ですから、正確性や効率性が求められるたいへんな仕事です。それでも「楽しいです。やりがいがあります。」と明るく頑張る姿に周囲のスタッフも元気をもらっています。病棟アテンダント業務の他、環境整備、事務補助、栄養部での業務など、輝生会の各拠点において「きらっとスタッフ」は活躍しています。

6. 最後に

障がい者雇用・就労定着支援は法人内外の関係者がチームワークで推進するべき活動です。輝生会マインドのひとつに「障害を有する人々と共に歩む精神」があります。チームアプローチを得意とする輝生会だからこそ挑戦できる取組みもあると思います。

輝生会の理念の実践のひとつとして、今後も障がい者雇用、定着支援を力強く進めてまいります。

文責:輝生会 顧問 職員支援室 室長 堅田由美子

人事管理システム「タレントパレット」導入による情報一元化と業務効率化の実現 ～より働きやすい職場環境を目指して～



輝生会は現在5つの拠点を有し、約1200名の常勤職員と約250名の非常勤職員が在籍しています。当法人では毎年約200名規模の新規採用および退職があり、拠点内や拠点間での配置転換も頻繁に行われています。これまで、職員のプロフィールや資格、研修履歴、面談記録、目標管理、人事考課、専門職評価といった重要な情報は、主にエクセルファイルや紙媒体で管理されていました。各拠点でファイルが散在し、異動のたびに手作業で情報を移行させる必要があったため、情報の把握や管理の非効率さが大きな課題となっていました。

この課題を解決し、正確な状況把握と業務効率化を図るため、人事管理システム「タレントパレット」を導入しました。2024年5月より初期構築とデータ入力を開始し、3部署でのトライアル運用を実施しました。既存のフォーマット(目標管理シートや人事考課、専門職評価など)や承認ルートをシステムへと落とし込み、1年間の準備期間を経て、2025年度より全拠点でシステムを効果的に活用できる体制が整いました。

本システム導入により散在していた職員情報はデータベース化され、全情報の一元管理が実現しました。個人でのエクセルファイル作成・管理が不要となり、部署異動時の手作業でのデータ移動や申し送りが不要になっただけでなく、必要な情報を即座に確認できるようになりました。また、スマートフォンからの入力や閲覧にも対応しており、気になったエピソードをすぐに記録できる環境も整備されました。特に、横断的に活動している専門職部門長は、面談やエピソード、研修履歴の閲覧・記録を効果的に活用できるようになりました。

一方で、システム操作に対する不慣れや、使い勝手の個人差も見られているため、操作に関する不明な点に対しては、サポート体制を強化していく必要があると考えています。しかし、蓄積されたデータを活用する土台は完成しました。今後は、日々の面談やエピソード記録から休職や退職の兆候となるキーワードを

抽出・分析し、データに基づいた離職防止対策や適正な人員配置へと役立て、より質の高い人材育成を目指します。

さらに、本システムの有する多彩な機能を積極的に活用することで、日常業務のペーパーレス化と利便性向上を推進します。昨年末は、年末調整において提出が必要な控除申告書を本システムで入力・提出できるようにし、職員の書類作成にかかる負担が軽減されました。今年4月からは健康診断にも本システムを活用します。スマートフォン等から結果がいつでも確認できるようになり、さらには経年データのグラフ化により職員の健康管理への意識向上を図ります。また、災害時職員安否確認機能の活用も控えており、災害発生時にも使い慣れたシステムを利用することで、安否確認の応答率向上、迅速な結果集計と追加指示が可能になることを目指します。その他にも、本システムで活用できる機能には様々なものがあるため、引き続き職員にとってよりプラスとなる活用方法を模索していきます。

このように、職員が利用するシステムの「入り口」をワンプラットフォームに集約することで、操作に慣れやすく満足度の高い職場環境を実現してまいります。輝生会は、これからもDX(デジタルトランスフォーメーション)の積極的な活用・推進を検討し、情報の一元化と業務効率化を通じた「新しい働き方」を実現することで、職員がいきいきと働き、質の高い医療・介護サービスを提供できる環境づくりに努めてまいります。



文責: 法人本部 回復期生活期支援部長 木川和子
法人本部 サポート部統括部長 加納知明